

『兩方一度づつ勝つたんですから今日は之でよしませう』

龜は兩方に申しました。

『象さんどうも有り難う龜さん御苦勞様』

『どうも龜さん有り難うほんとに面白かつた、鯨

## 欲ばり王様

或處に大變欲の深い王様がありました、立派な御殿の中に住んで立派な着物を着て立派な寶を澤山持つて、何も不自由はありません、けれども王様はまだ足りません、もつとく澤山に金が欲しくてたまりません。そこで、

『自分が手ではりませんものは、みんな金になりますやうに』と神様にお願ひいたしました。神様は『よし〜お前の望み通りにしてやる、あしたの朝からお前の手のさはるものは何でも金にしてやる』

さん中々面白かつたね、またいつかしませう』海と陸とで大きな聲で話をして皆大よろこびをいたしました、そして象はお山に鯨は沖の方に歸つて行きました。(をばり)

とおつしやいました、王様はうれしくてあしたの朝を待ちかねて床にはいりました。愈あしたの朝になると王様は早くおきました、そしてうれしくてく〜たまりません、先づ着物をきかへやうと思つて着物をとらうとしますと眞白のお洋服がピカツと光つて見る間に金になつてしまひました、『まあ何とうれしいことだらう金の着物をきて』大よろこびで今度は顔を洗はうと思つてかなだらいにさはりますとまたピカツと光つて金になりました。

『何とうれしいことだらう、金のたらいの中で顔を洗つて、さぞ心持がよからう、どれ／＼水を汲んで』と水を汲み入れるとどうでせう水まで金になりました。

『おや／＼これはちと困る、しかし一度位顔は洗はなくつてもいゝ、金の水が出来たんだから、ドレ／＼一つ歯をみがかう』楊子をとればその楊子が金、コップをとればコップが金、はみがき粉も亦金のこな、

『おや／＼實に驚いたことだ、しかし一朝位齒はみがかなくてもいゝ、こんなに金が出来て何とうれしいこととせう、さあゆつくり朝飯でも頂いてこの金を見て楽しもう』

王様の前には立派なお膳が運ばれました。甘しそうな肉やお肴や卵やあつち御飯が並んでゐます『さあ喰べやう』と箸をとると箸が金です、茶碗をとれば茶碗も金、お肴も金卵も金肉も御飯も皆金です。

『まあ、これには驚いてしまつた、しかしこんなに金が出来て何とうれしいこととせう、一度位御飯をたべなくなつて何でもない、ながめてゐるとほんとうにうれしい』

それから王様はお庭を散歩なさいました。手をおふれになつた所は皆金です、お花も金になる草も金になる、かうしてゐると大分お腹がすいていらつしやいました、丁度其の時、

『王様御飯でございます』といつて御家來が來りました。

王様は喜び食堂にいらつしやいますと、テーブルの上には朝よりも甘しそうな西洋料理が澤山々々並んで居ります。

『おー、甘しそうだ、どれ／＼』と王様が手をおつけになるとこれもあれも皆金です。

『これは困つた、お腹が大變空いてるのに、困つてしまふ、何か一品でも食べたいものだ』

しかし御馳走は残らず金になつてしまひました

王様はもう困つておしまひになりました。

『何かお菓子でも持つて来い』

甘しそうなお菓子をきれいなお皿にのせて牛乳をいつしよに王様の前に運ばれました。

『あゝそれならよからう、どれ一つ』とらうとなさいますと矢張金です、

『あゝじれつたい果物を早く早く』

きれいな籠に入れたバナ、や林檎が運ばれました。

これこそと思つてとらふとすれば矢張だめです皆ピカツとひかつてキラ／＼とかたい金になつてしまいます。

『おーじれつつたい』王様は何もかもなげつけておこりになりました。

『あゝこんなつまらないことはない』

とおつしやつたまゝ王様は大事の大事の可愛らしいお姫様のお部屋にとんでいらつしやいました、そうしていきなりお姫様を抱きしめました

そうしたらどうでせう、お姫様がピカツと光つたかと思ふとコロツツとかたい／＼金になつてしまひました。王様は

『アレ——、困つたことだ、神様よ々々、何もいりませぬからこの娘丈を人間にして下さいまし』と一生懸命にお願いいたしましたら、神様は

『よし／＼、その願はきいてやらう、もう欲ばつてはならんぞ』

とおつしやつたと思ふとお姫様はニコ／＼して

『お父様』とおつしやいました。王様は

『おーよかつた、お前さへかうなつてくれ、ばわしはもう／＼何もいらんのだ』

とおつしやつて涙を流してお喜びになりました。